

創造力，表現力を高める芸術科学習指導の在り方

嬉野市立吉田小学校 教諭 熊本 由美子 白石町立白石中学校 教諭 本島 民子

1 研究の趣旨

資源のない日本が世界でも豊かな国と認められる背景には，高い技能や技術力におけるものづくりによるところが大きい。工業化社会から，「知識基盤社会」へと移行する今日の社会においては，知識・技能の習得にとどまらず，その活用を通じて「知恵」を生み出し，新たな課題を解決していく力が求められている。すなわち，よりよい社会を形成するために主体的・創造的に生きていこうとする資質や能力の育成が必要である。

今日，芸術活動は，人それぞれの生活に応じて多様化してきている。例えば，焼き物の技術をコンセントカバーに応用するといった既知の知識や技術を新しい状況において生かす知恵がうかがえる。このような中，図画工作・美術科においては，造形表現活動を通して児童生徒一人一人の創造力，表現力を高めることが一層重要になっている。それらの力は，自己実現に生きて働く基礎的・基本的な資質や能力の基盤になるものと考えられる。

そこで本研究では，身近な生活とかかわりのある題材を扱うことにより，児童生徒が学習したことを日常と関連付けて思考し，生活を豊かに創造する能力を高めると考え，研究を行った。

2 研究教科・領域等

小学校図画工作科，中学校美術科において研究課題の解決に向けて研究を行った。

3 研究の成果

(1) 文献による理論研究

ア 創造力，表現力の高まり

創造力とは，「感じたことや考えたことなどを基に想像力を働かせながら自分らしい発想をし，豊かな表現を構想する力」である。そして表現力とは，「表したい思いや意図に応じて，創造的な技能を働かせたり，造形感覚を生かしたりしながら，工夫して表す力」ととらえた。

本グループでは，実生活と結び付いた題材を開発し，友達や地域と関連させることによって，創造力，表現力が高まると考え研究を行った。

イ 生活を豊かに創造する能力の育成

遠藤友麗は「文化芸術の中核をになう美術の授業では，平素の生活や職業生活の中で新しいものや美しく心豊かなものを発想し，それを色と形で表現したり環境をより美しく構成したりする造形感覚・能力の育成を一層重視していく必要がある」と述べている。すなわち，図画工作・美術の創造活動では，造形的な資質や能力を確かに身に付け，実生活を美しく心豊かに創造していく力や態度を身に付けることが望まれている。実生活の中で，絵を描いたり，美術館に出かけたりして美術に親しむことや，自分の服装や持ち物，室内や地域環境等を美しく構成し，装飾できるのは，人間だけがもつ特性である。そのとき，必要とされる能力は図画工作・美術の学びによって培われる。つまり「生活や社会に生きて働く美術の能力の育成」が求められているのである。板良敷敏は，「人の知識や技能は，日常との関係で一層働き，問題解決を進めることがわかってきた。」¹⁾と述べている。したがって，生きて働く力を育成するためには，実生活と関連のある題材

を取り上げ、その中で確かな資質や能力を身に付けさせることが有効であるという認識を深めた。また、身近な存在である友達との交流活動を行うことによって、児童生徒は多種多様な表現に触れることができ、見方や感じ方が深まる。その感性の深まりが、児童生徒の発想を広げる手助けとなり、創造力や表現力の伸長にもつながっていくと思われる。

(2) 研究の実際

児童生徒の創造力、表現力を高めるために、以下のような手立てを取って検証授業を行った(図1)。友達や地域とかかわりをもたせた題材を開発することで、児童生徒に学習内容をより身近なこととしてとらえさせ、生活の中で生かすことができるようにする。児童生徒の発想を広げさせるために、ワークシートを開発する。いろいろな技法を紹介し、それを児童

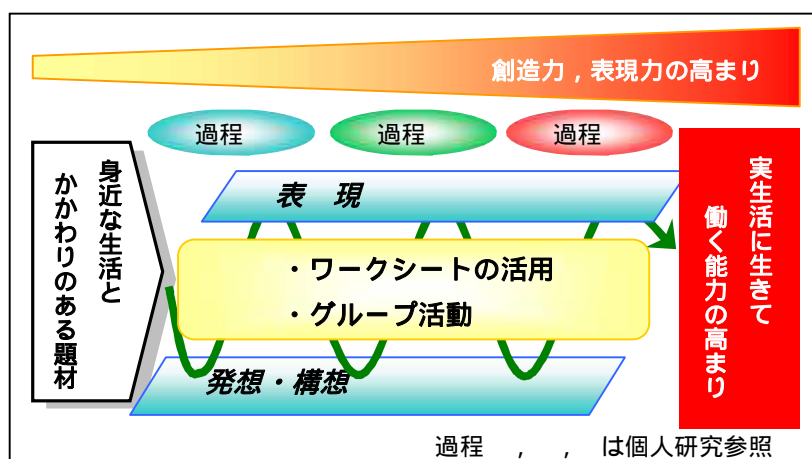


図1 創造力、表現力を高めるための構想図

生徒が活用できる場を設けることで、創造的な技能を身に付けさせていく。生活を豊かに創造する能力を培うために、既習の内容を生かし、実生活に関連させた創造活動を行わせる。

(3) 研究の成果

小学校図画工作科では、友達との交流活動の場を設け、児童の発想を広げさせるワークシートを活用したことで、児童は意欲的に制作を進めることができた。また、いろいろな技法を紹介した上で、新たに思い付いたことを試みる場を設けることにより、児童は様々な方法の中から、自分のイメージに合う表現を選択し、追求していた。中学校美術科では、地域のものづくりを鑑賞することで生徒の手工芸品に対する興味・関心が高まり、更に歴史や技法等の背景を知ることによって理解を深めることができた。また、生徒はグループで意見や情報を交換したり、ワークシートを活用したりすることにより、様々な観点で具体的に感想を述べるできるようになった。

このように、友達や地域とかかわりのある題材に取り組みさせることは、児童生徒の学習意欲をより喚起し、実生活と関連付けて働く力を付けるために有効であることが分かった。

4 今後の課題

- (1) 創造力、表現力の高まりを客観的に見取るため、評価方法の更なる改善を図る。
- (2) 生活を豊かに創造することを実生活に反映させるための手立てを工夫する。

《引用文献》

- 1) 板良敷 敏編 『新学習指導要領を生かした図画工作科の授業』 2002年 小学館 p.17

《参考文献》

- ・ 遠藤 友麗 『中等教育資料 平成18年6月号』 2006年 ぎょうせい p.30
- ・ 板良敷 敏編 『新学習指導要領を生かした図画工作科の授業』 2002年 小学館 p.20
- ・ 文部省 『小学校 図画工作 指導資料 指導計画の作成と学習指導』 平成3年 日本文教出版株式会社 p.15